

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：ニガウリの早期多収技術			
<p>[要約] ニガウリの露地栽培において、3月下旬に透明ビニール＋不織布の二重トンネルで保温したトンネル内に定植することで、定植時期を1～2週間早めることができる。その結果、収穫開始が早まり、市場価格の高い6月の増収が可能になる。</p>			
キーワード [※] ニガウリ、ゴーヤ、早期定植、不織布、収穫前進化			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・暖地園芸研究所・野菜・花き研究室 協力機関 君津農業事務所		
実施期間	2010年度～2011年度		

[目的及び背景]

本県のニガウリ栽培は、平成15年に袖ヶ浦市で本格的にスタートし、平成20年には君津地域管内において栽培面積は4.9ha、販売高は1,620万円、出荷量は83tまで増加している。ニガウリは本県の産地において、既存栽培品目の端境期における重要な収入源となっている。しかし、全国各地からニガウリの出荷が集中する盛夏期（7～8月）には、市場価格の著しい下落が問題となる。そこで、市場価格の高い6月中の増収を可能にするニガウリの露地栽培技術を確立する。

[成果内容]

- 1 慣行の露地トンネル内側に不織布（パスライト）を接するように被覆して二重トンネル状にすることで（図1）、春先の定植・生育期におけるトンネル内部の保温性が向上する（表1）。このため、定植時期を1～2週間早めることができる。
- 2 3月下旬に定植を早めて二重トンネル状にパスライトを被覆すると、4月上旬に定植する慣行栽培と比較して、収穫開始が大幅に早まり、市場価格の高い6月の収量が増加する（表2）。

[留意事項]

トンネル内側に設置したパスライトは通気性があるため開閉不要であるが、春先の晴天時に高温障害が発生する場合があるので、必要に応じて開閉する。パスライトは4月下旬以降に撤去する。

[普及対象地域]

千葉県内の露地ニガウリ生産者

[行政上の措置]

自家育苗施設を持たず、購入苗を利用している生産者に普及するに当たっては、JAや苗販売業者等と連携し、3月下旬の定植に合わせた苗の供給体制を整える必要がある。

[普及状況]

平成24年から、袖ヶ浦市内の生産者がパスライトを利用した栽培に取り組んでいる。

[成果の概要]

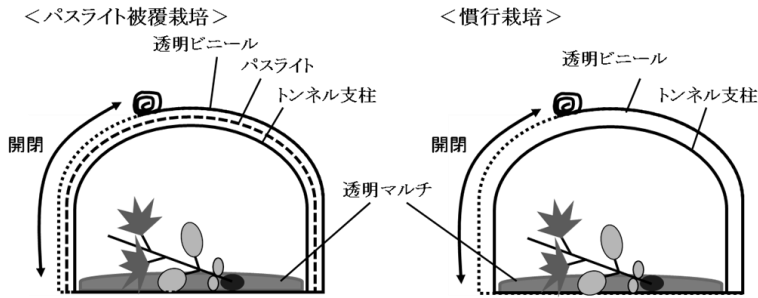


図1 パスライト被覆栽培と慣行栽培の模式図

表1 ニガウリの早期多収栽培におけるトンネル内気温及び地温

試験区 ¹⁾	気温 ²⁾		地温 ³⁾	
	平均	最低 (記録日)	平均	最低 (記録日)
パスライト被覆	19.5℃	1.5℃ (4月5日)	21.8℃	13.7℃ (3月30日)
慣行	18.3℃	-0.6℃ (4月5日)	21.4℃	13.3℃ (3月30日)

注1) 平成23年3月30日から5月16日まで30分間隔で測定した

2) 透明マルチ上10cmの気温を測定

3) 透明マルチ下10cmの地温を測定

表2 ニガウリの早期多収栽培における月別果実収量

試験区 ¹⁾	収穫開始日	可販収量 (kg/10a)				
		6月	7月	8月	9月	合計
3月下旬定植+パスライト被覆 ²⁾	6月8日 ** ⁴⁾	281 **	1,863	1,533	710	4,386
パスライト被覆 ³⁾	6月18日	92	1,726	1,576	561	3,956
慣行 ^{x)}	6月23日	108	1,630	1,437	578	3,754

注1) 品種「えらぶ」、1区3株、4反復

2) 平成23年3月7日播種、3月29日定植

3) 平成23年3月17日播種、4月8日定植

4) Dunnett法により慣行区と比較して1%水準で有意差あり

[発表及び関連文献]

[その他]